

抗がん剤治療を
受けられる方へ
【TC療法】



さいたま赤十字病院

どんなお薬を使うの？

抗がん剤には、がん細胞に対する作用の違いから、たくさんの種類のお薬があります。

この治療は『タキソール』と『カルボプラチン』という2つのお薬を使用した2剤併用療法を行います。

タキソール

『タキソール』は、「タキサン系抗がん剤」と呼ばれる抗がん剤の一つです。

このお薬は、がん細胞の増殖を阻止することで、効果を発揮します。

カルボプラチン

『カルボプラチン』は、「白金錯化合物（プラチナ系）」と呼ばれる抗がん剤の一つです。

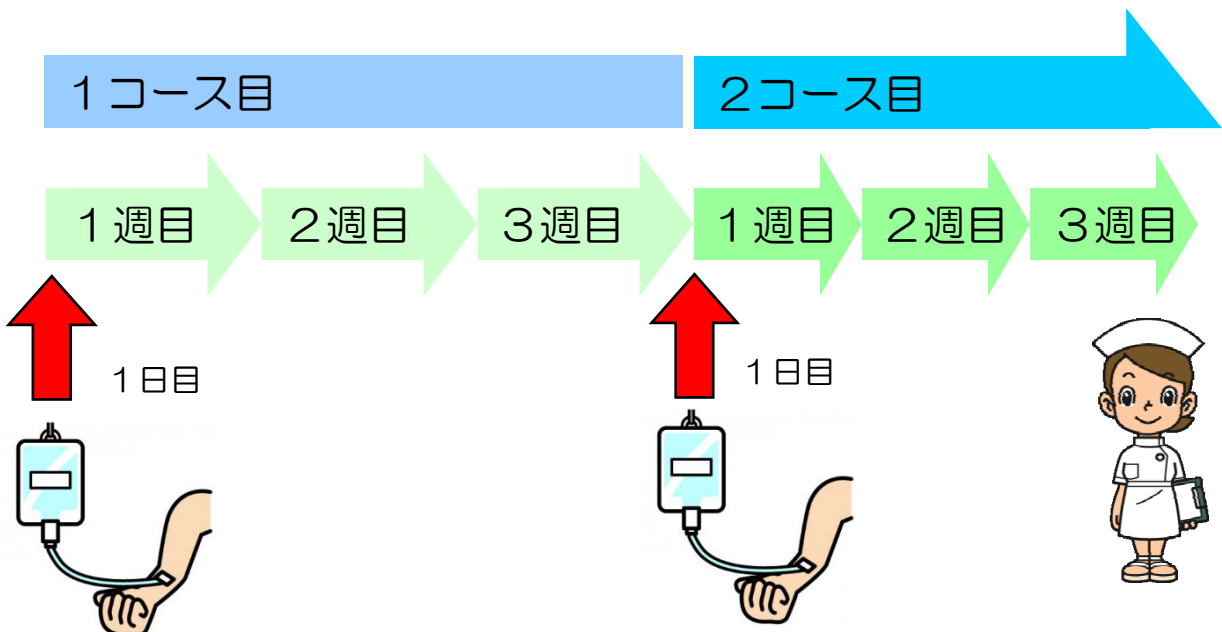
このお薬は、がん細胞の増殖を阻止することで、効果を発揮します。同系の中では腎臓への影響を少なくしたお薬です。

投与スケジュール

TC療法

標準的な投与スケジュール

この治療は、3~4週毎に1回の点滴を行います。
これを1コースとして繰り返していきます。
症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。



点滴当日のスケジュール



点滴開始

お薬の作用

ポララミン
15分

ポララミン：アレルギー予防

ガスター
デカドロン
15分

ガスター：アレルギー予防
デカドロン：吐き気止め

アロキシ
30分

アロキシ：吐き気止め

タキソール
3時間

タキソール：抗がん剤
※アルコール含有

生理食塩液

ライン薬液を洗い流します。

カルボプラチン
60分

抗がん剤

生理食塩液

ラインの薬液を洗い流します。

5時間05分

点滴を受ける際の注意

このお薬は点滴注射の際、わずかな漏れでも皮膚に障害をおこすことがあります。点滴注射中は下記の点にご注意ください。

- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴注射中は安静にしてください。
- 点滴注射中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりする時は、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。
- 点滴注射中にかゆみや発疹、火照り感、胸苦しさ、吐き気、腹痛など、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。



予想される主な副作用と対策

副作用には個人差があり、種類や程度もさまざまです。以下に予想される副作用とその対策についてご紹介しますので参考にしてください。

アレルギー反応



アレルギー反応は、抗がん剤の点滴時やその直後に起こり、その多くは軽い症状ですが、まれに、急に血圧が下がるといった症状が起こることがあります。アレルギー症状の多くの場合、点滴を初めてから10分以内に起こることが多いです。特に、投与初回時や数コース後に起こる事もあり注意が必要です。

下記のような症状が出たり、少しでもおかしいと感じたりした時は、**すぐに近くにいる医師または看護師、薬剤師にお知らせください。**

点滴中に

- 息苦しい。
- 胸が苦しい、痛い。
- 発疹・かゆみが出る。
- 心臓がドキドキする。
- 顔がほてる。
- 汗が出る（冷汗）。

吐き気・嘔吐・食欲不振



吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状は、薬剤が消化管粘膜や嘔吐中枢を刺激することで起こります。

多くの患者さんにみられる副作用ですが、その予防として吐き気止めの薬を十分使用していきますので安心してください。ただし、症状や程度には個人差がありますので、辛い場合には早めに主治医へご相談ください。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

- 嘔吐が1日に何回も起こる。
- 嘔吐のため水分や食事がとれない。
- 吐き気が長期にわたって続いている。
- 吐き気のため、吐き気止めを飲むことができない。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫



- ・吐き気や嘔吐症状がある場合には無理には食べない。
- ・食後はすぐに横にならない。
- ・映画や音楽などでリラックスを試みましょう。
- ・吐き気が生じたら、ゆっくり呼吸しましょう。
- ・体を締めつけるような衣類は避けましょう。

骨髄抑制

血液の中には白血球、赤血球、血小板という3つの成分があります。これらは骨髄という、いわば血液生産工場で作られています。骨髄の機能が抗がん剤の影響を受けて低下することを骨髄抑制といいます。

白血球の減少



骨髄抑制により、細菌から体を守る役割を担う白血球（特に好中球という成分）が一時的に著しく減少し、体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症が起こりやすい状況になります。点滴終了後 10～14 日後に最も少なくなり、その後 7～10 日程度でもとの値に戻ります。点滴後 1～2 週間ぐらいは感染しやすい時期ですのでとくに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

感染症の徴候

- 38℃以上の熱が持続する。
- のどの痛みがある。
- 寒気がする。
- 排尿時の痛み。
- せきが出る。
- 頻尿。
- 軟便、下痢が続く。

白血球がかなり減少している場合、白血球を増加させる薬剤を使用する場合があります。また、感染症の可能性がある場合、抗生物質などを使用することもあります。

感染症を予防するための対策



- 外出時はマスクを着用し、できるだけ人混みは避けてください。また、風邪などの感染症にかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 外出から戻ったときや、トイレ、食事の前後は手をよく洗い、こまめにうがいをしましょう。
- 歯を磨くときは、口の中を傷つけないように、柔らかく清潔な歯ブラシを使ってやさしく磨きましょう。
- 短時間の手早いシャワーを浴びるなどして、身体を清潔に保つようにしてください。
- 排便後の肛門周囲を清潔にして傷などをつけないようにいねいに扱ってください。
- 皮膚に小さな傷がついた場合は放置せずに、消毒剤をつけるなどして、十分手当てをしておきましょう。
- 刃物を使う時、アイロンがけや、料理の時の火傷などに気をつけましょう。
- 主治医に相談せずに予防接種を受けないようにしましょう。

赤血球の減少



全身に栄養(酸素)を運ぶ役割を担う赤血球を一時的に減少させ、全身の酸素量が低下してめまいや息切れなどの貧血症状が起こりやすい状況になります。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

- 貧血の徴候
- 息切れ。めまい。頭重感
 - 疲れやすい。
 - さむけ。

血小板の減少



血液を固まらせる役割を担う血小板を一時的に減少させ、鼻血、内出血、歯ぐきからの出血などの症状が起こりやすい状況になります。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

- 血小板減少の徴候
- 鼻血が出やすい。
 - 歯ぐきから出血しやすい。
 - 青あざがでやすい。
 - 血が止まりにくい。
 - 血尿。

脱毛



脱毛は、治療を開始して2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が根元で切れるようになり、頭皮も柔らかくなるのが症状の出始めです。これは、髪の毛を作る細胞(毛母細胞)で細胞分裂が活発に行われているため、抗がん剤の影響を受けやすいからです。

脱毛は、髪の毛だけでなく、眉毛、まつ毛など全身の体毛におこり、少しずつ薄くなる人もいれば、大量に頭髪が抜ける人もいます。脱毛は治療による一時的な副作用です。回復は比較的早く、治療の全コース終了後、しばらくすると生え始め、約6ヶ月程度で回復します。

最近では、脱毛をサポートするグッズも充実しています。
お悩みの際は、医師または看護師にご相談ください。

脱毛の対策



- シャンプーは刺激の少ないものを選びましょう。
- ヘアブラシはやわらかいものを使いましょう。
- ヘアドライヤーの設定温度は低めにしましょう。
- 髪を染めたり、パーマは避けましょう。
- 治療前にあらかじめ髪をカットしておきましょう。
- かつらのほかに、帽子、バンダナ、スカーフを活用しましょう。

筋肉痛、関節痛



お薬を投与して2～3日後に、肩や背中、腰や腕などの筋肉が痛くなったり、関節が痛くなる場合があります。この症状は、ほとんどの場合は一時的で5～6日以内に自然に回復します。

上記のような症状が出現し、我慢できない時は医師または看護師に相談しましょう。

痛みが継続したり、我慢できない痛みの場合、鎮痛剤や漢方薬を使用する場合があります。

関節や筋肉の痛みを防ぎ、重くならないために



- 痛みのある部分を温めて(温浴、温湿布)みましょう。
- 体の中心に向かってマッサージしてみましょう。血行が促進され、症状が改善することがあります。



手足のしびれ



お薬を投与して3～5日後ぐらいから、手や足がしびれたり、刺すような痛みがあったり、感覚が鈍くなったりすることがあります。これは手足の神経細胞が傷害されるために起こると考えられています。また、投与する回数が増えるほど発現しやすく、持続するようになります。症状が軽い場合には自然回復も早いですが、症状が強い場合には回復に時間がかかります。

上記のような症状が出現し、**気になる時は我慢せずに医師または薬剤師、看護師に相談しましょう。**

しびれ感や痛みが継続したり、日常生活に支障をきたす場合は、お薬を減量したり、一時休薬したりします。

また、症状によりビタミン剤や鎮痛剤、漢方薬を使用する場合があります。

手足のしびれを防ぎ、重くならないために



- 重いものはなるべく持たないようにしましょう。
- つらい時は無理せず、家族の方に手伝ってもらおうようにしましょう。
- 温感が鈍るので、特に火傷などに注意しましょう。

口内炎



口内炎は治療を開始して5～14日目頃より、口の中がヒリヒリする症状が出てくることがあります。

口内炎ができると舌や口の粘膜があれたり潰瘍ができて、食べ物がしみたり、口の中が腫れたりします。

口内炎は確実な治療法がないので、予防がもっとも大切です。口内炎のほとんどは治療終了後に回復します。

口内炎がひどくなると、食事がとれず体力が低下する場合があります。口内炎が起きたら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

口内炎の予防と対策



- 食後は歯ぐきを傷つけないように柔らかい歯ブラシで、きちんと歯を磨きましょう。
- 外出から帰宅した時、毎食後、ねる前に水または医師から処方されたうがい薬でまめにうがいをしましょう。
- 熱い食事は口や喉に刺激となるので、冷たい物や室温程度に冷めたものを食べるようにしましょう。
- 酸味の強いもの、スパイスをきかせたもの、塩辛いものは、なるべく食べないようにしましょう。

下痢



下痢は治療を開始後すぐに起こるものと、数日から2週間頃に起こる場合があります。

これはお薬が腸管運動を活発にしたり、腸管の粘膜を障害するために起こります。

1日に何回も下痢をしたり、水分も摂れない場合は、我慢せずに、**医師または看護師に連絡をしましょう。**

下痢が続く時の対処



- 乳製品、香辛料を使ったもの、脂っこいもの、食物繊維の多いもの、匂いの強いものは避け、なるべく消化のよいものを取りましょう。
- 脱水症状になるのを防ぐため、スポーツドリンクなどで十分に水分を取りましょう。

便秘



便秘は、お薬による場合もありますが、食事の影響や運動不足が原因の場合もあります。

便秘が続く時の対



- 水分を十分とり、食物繊維の多いものを取りましょう。
- 軽い運動をする様に心がけましょう。

倦怠感



治療を開始して数日後からからだが重い、疲れやすいといった倦怠感を感じることがあります。

原因は明確ではありませんが、化学療法に伴う一時的な副作用で、病状が悪化しているわけではありません。

倦怠感のある時の対策



- 睡眠と休息を十分とりましょう。
- 軽い運動をする様に心がけましょう。
- 音楽や読書など好きなことをして気分転換を図りましょう。

皮膚、爪の変化



治療を開始して数週間後から皮膚にしみができたり、爪が変色や変形することがあります。これらの症状は治療が終了すれば徐々に回復してきます。

爪の変化時の対応



- 爪は短く切りそろえ、清潔にしておきましょう。
- 爪を洋服などに引っかけないよう注意しましょう。
- マニキュアでコーティングしてもよいでしょう。

アルコール過敏症



タキソールの点滴は、医療用アルコールを含んでおり、投与により一時的にお酒に酔った状態（火照り、ふらつき感、めまい 等）になることがあります。

点滴時間を長くするため、アルコールの影響は少ない方が多いようです。

投与当日は自動車や自転車などを運転することは控えてください。



【まれだが、注意が必要な症状】



間質性肺炎

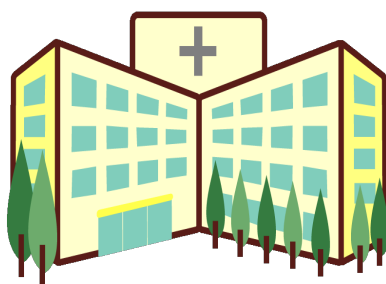


抗がん剤が原因で起こる肺炎です。症状としては、「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」などがみられます。

これらの症状が急に出現したり、持続したりした場合には、早々に病院に連絡してください。

以上が代表的な副作用ですが、これ以外にも予期せぬ副作用があらわれることがあります。

気になる症状やいつもと違う症状がある場合は、どんな些細なことでも我慢せずに医師または看護師、薬剤師にご相談ください。



連絡先(平日 8:30~17:00)

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5

TEL : 048-852-1111 (代表)